

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 専門教科「商業」)

文部科学省

初等中等教育局

参事官（高等学校担当）付 産業教育振興室

教科調査官 田中 圭

目次

1. 新学習指導要領の改訂のポイント
2. 学習評価の改善の基本的な考え方
3. 学習評価の進め方



1.新学習指導要領の改訂のポイント

人工知能が進化して、
人間が活躍できる職業は
なくなるのではないか。

今学校で教えていることは、
時代が変化したら
通用しなくなるのではないか。

子供たちに、情報化やグローバル化など急激な社会的変化の中でも、
未来の創り手となるために必要な資質・能力を
確実に備えることのできる学校教育を実現する。

よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を作るという**目標を学校と社会が共有**して実現

社会や産業の構造が変化し、質的な豊かさが成長を支える成熟社会に移行していく中で、私たち人間に求められるのは、定められた手順を効率的にこなしていくにとどまらず、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであるということ、そのためには生きて働く知識を含む、これからの時代に求められる資質・能力を学校教育で育成していくことが重要であるということを、学校と社会とが共通の認識として持つことができる好機にある。

学校教育のよさをさらに進化させるため、学校教育を通じて子供たちが身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像を分かりやすく見渡せる「**学びの地図**」として、**学習指導要領を示し、幅広く共有**

- ・ これからの時代に求められる知識や力とは何かを明確にし、教育目標に盛り込む。これにより、子供が学びの意義や成果を自覚して次の学びにつなげたり、学校と地域・家庭とが教育目標を共有してカリキュラム・マネジメントが実現しやすくなる。
- ・ 生きて働く知識や力を育む質の高い学習過程を実現するため、各教科における学びの特質を明確にするとともに、授業改善の視点（「アクティブ・ラーニングの視点」）を明確にする。これにより、教科の特質に応じた深い学びと、我が国の強みである「授業研究」を通じたさらなる授業改善が実現する。

新しい時代に必要な資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

生きて働く知識・技術の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む
「社会に開かれた教育課程」の実現

各学校における「カリキュラム・マネジメント」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要な資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共」の
新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構
造的に示す

学習内容の削減は行わない※

どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・
ラーニング」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習
得など、新しい時代に求
められる資質・能力を育成

知識の量を削減せず、質
の高い理解を図るための
学習過程の質的改善

主体的な学び

対話的な学び

深い学び

※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題に
なっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

学校教育法第30条第2項が定めるいわゆる学力の3要素（「知識・技術（職業教科では「知識・技術」）」、「思考力・判断力・表現力等」、「主体的に学習に取り組む態度」を、学習する子どもの視点に立ち、育成をめざす資質・能力の三つの柱で整理

学びに向かう力、人間性等

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

知識及び技術

理解していること・できる
ことをどう使うか

思考力・判断力・表現力等

【参考】学校教育法第30条第2項

生涯にわたり学習する基盤が培われるよう、**基礎的な知識及び技能**を習得させるとともに、これらを活用して課題を解決するために必要な**思考力、判断力、表現力その他の能力**をはぐくみ、**主体的に学習に取り組む態度**を養うことに、特に意を用いなければならない。

- グローバル化の進展、情報技術の進歩への対応
- 観光産業の振興、地域におけるビジネスの推進への対応
- ビジネスにおけるコミュニケーション能力とマネジメント能力の向上への対応

1. 改訂の基本的な考え方

- 経済のグローバル化、情報技術の進歩、観光立国の流れなどを踏まえ、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人を育成するよう学習内容等を改善・充実。

2. 学習内容の改善・充実

(1) グローバル化の進展への対応

- 現行の「ビジネス経済」及び「ビジネス経済応用」の経済に関する指導項目について「グローバル経済」に整理統合し、グローバル化の動向・課題、企業活動のグローバル化に関する指導項目を取り入れるなど学習内容を改善。

(2) 情報技術の進歩への対応

- 「簿記」について、コンピュータを活用した会計処理が普及している状況を踏まえ、会計ソフトウェアの活用に関する指導項目を現行の「ビジネス実務」から移行するなど学習内容を改善。
- 現行の「電子商取引」を「ネットワーク活用」に再構成し、インターネットを活用したビジネスの創造に関する指導項目を取り入れるなど学習内容を改善。
- 現行の「ビジネス情報管理」の情報通信ネットワークに関する指導項目について「ネットワーク管理」に分離し、情報セキュリティ管理に関する指導項目の充実を図るなど学習内容を改善。

2. 学習内容の改善・充実

(3) 観光産業の振興への対応

- 地域の活性化を担うよう、観光ビジネスの展開に必要な資質・能力を育成する視点から「観光ビジネス」を新設し、観光資源と観光政策、観光ビジネスとマーケティングなどの指導項目で構成。

(4) 地域におけるビジネスの推進への対応

- 「ビジネス基礎」について、地域のビジネスを担う資質・能力を育成する視点から国内の身近な地域のビジネスに関する指導項目を取り入れるなど学習内容を改善。

(5) ビジネスにおけるコミュニケーション能力の向上への対応

- 現行の「ビジネス実務」を「ビジネス・コミュニケーション」に再構成し、ビジネスにおける思考の方法とコミュニケーションに関する指導項目を取り入れるなど学習内容を改善。

(6) ビジネスにおけるマネジメント能力の向上への対応

- 現行の「ビジネス経済応用」の企業経営、ビジネスの創造などに関する指導項目を「ビジネス・マネジメント」に分離し、人的資源、物的資源など経営資源のマネジメントに関する指導項目を取り入れるなど学習内容を改善。

3. 学習指導の改善・充実

- ビジネスの動向・課題を捉える学習活動及びビジネスに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う学習活動を充実。
- ビジネスに関する理論を実験などにより確認する学習活動及びビジネスに関する具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいてビジネスに関する計画を立案して提案などを行う学習活動を充実。

企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付けること

育成を目指す人材像

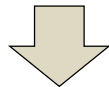
商業の見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

育成を目指す資質・能力

- (1) 商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。【知識及び技術】
- (2) ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。【思考力、判断力、表現力等】
- (3) 職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

教科として育成を目指す人材像	ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人	
育成を目指す職業人の例	● 流通業、金融業等を担う人材 ● 製造業、サービス業等様々な業種における販売、仕入、営業、マーケティング、企画、人事、経理、原価管理、情報等の部門に関わる職の担当者 ● 公認会計士、税理士、中小企業診断士、社会保険労務士、ファイナンシャル・プランナー、旅行業務取扱管理者等の資格職（学びを継続するなどして） ● 管理的立場の職（経験を積むことで） ● その他、様々な業種、職種における、商業の学びに関連する人材	
育成を目指す資質・能力	知識及び技術	商業の各分野についての体系的・系統的な理解及び関連する技術
	思考力、判断力、表現力等	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力
	学びに向かう力、人間性等	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度



商業の見方・考え方（企業活動に関する事象を、企業の社会的責任に着目して捉え、ビジネスの適切な展開と関連付ける）を働かせ、実践的・体験的な学習活動を行う など

改訂	改訂前	備考
ビジネス基礎 課題研究 総合実践 ビジネス・コミュニケーション マーケティング	ビジネス基礎 課題研究 総合実践 ビジネス実務 マーケティング 広告と販売促進 商品開発	再構成 整理統合
商品開発と流通 観光ビジネス ビジネス・マネジメント グローバル経済 ビジネス法規 簿記 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 原価計算 管理会計 情報処理 ソフトウェア活用 プログラミング ネットワーク活用 ネットワーク管理	ビジネス経済応用 ビジネス経済 経済活動と法 簿記 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 原価計算 管理会計 情報処理 ビジネス情報 プログラミング 電子商取引 ビジネス情報管理	名称変更 新設 分離 整理統合 名称変更 名称変更 整理統合 再構成 分離

分野	各分野の科目	分野共通の科目	
		基礎的科目	総合的科目
マーケティング分野	マーケティング 商品開発と流通 観光ビジネス	ビジネス基礎(＊) ビジネス・コミュニケーション	課題研究(＊) 総合実践
マネジメント分野	ビジネス・マネジメント グローバル経済 ビジネス法規		
会計分野	簿記 財務会計Ⅰ 財務会計Ⅱ 原価計算 管理会計		
ビジネス情報分野	情報処理 ソフトウェア活用 プログラミング ネットワーク活用 ネットワーク管理		

＊は、商業に関する学科における原則履修科目を表す。

ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担うことができるようにする。

課題研究		総合実践	
ビジネスに関する課題を発見し、解決策を探究して創造的に解決するなど、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の一層の向上		ビジネスの実務における課題を発見し、創造的に解決するなど、ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な資質・能力の一層の向上	
マーケティング分野	マネジメント分野	会計分野	ビジネス情報分野
ビジネス・コミュニケーション			
ビジネスにおいて円滑にコミュニケーションを図るために必要な資質・能力の育成			
ビジネス基礎			
ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を担う職業人として必要な基礎的な資質・能力の育成			

学び方の例	● 各種メディアの情報を活用するなどして経済社会の動向を捉える ● 商業の各分野に関する適切な課題を設定し、主体的かつ協働的に取り組む ● 職業や業務に関して、地域や産業界等と連携して具体的な実務について理解を深める ● 実務に即して知識、技術などを総合的に活用する ● コミュニケーションに関する知識、技術などを様々な学習活動の中で活用する など
-------	--

効果的にマーケティングを展開する力及び顧客を理解し、マーケティングの考え方を踏まえてビジネスを展開する力を育成する。

課題研究		総合実践
マーケティング	商品開発と流通	観光ビジネス
マーケティングの考え方の広がりに対応して、効果的にマーケティングを展開するために必要な資質・能力の育成	流通を見据えて商品開発を行うとともに、商品の企画や事業計画を理解した上で流通を展開するために必要な資質・能力の育成	国内に在住する観光客及び海外からの観光客を対象とした観光ビジネスを展開するために必要な資質・能力の育成
ビジネス・コミュニケーション		
ビジネス基礎		

学び方の例	● マーケティングの動向・課題を捉える ● 具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う ● 理論を実験などにより確認する ● 科学的な根拠に基づいてマーケティング計画を立案して提案などを行う など
-------	---

経済社会の動向や法規などを踏まえて経営資源を最適に組み合わせてビジネスを展開する力を育成する。

課題研究		総合実践
ビジネス・マネジメント	グローバル経済	ビジネス法規
経営資源を最適に組み合わせて適切にマネジメントを行うために必要な資質・能力の育成	地球規模で経済を俯瞰し、経済のグローバル化に適切に対応して直接的・間接的に他国と関わりをもってビジネスを展開するために必要な資質・能力の育成	法規に基づいてビジネスを適切に展開するために必要な資質・能力の育成
ビジネス・コミュニケーション		
ビジネス基礎		

学び方の例	- 適切なマネジメントの重要性について企業の社会的責任や企業倫理との関連から捉える - マネジメントに関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う - 具体的な課題を設定し、科学的な根拠に基づいてビジネスアイデアなどを考案する - 経営資源を効果的に活用した事業計画を立案して提案などを行う など
-------	--

企業会計に関する法規と基準に基づき適正な会計処理を行い、利害関係者（ステークホルダー）に会計情報を提供する力及び会計情報をビジネスに効果的に活用する力を育成する。

課題研究

総合実践

簿記

財務会計Ⅰ

財務会計Ⅱ

原価計算

管理会計

企業において日常発生する取引について適正に記録するとともに、適正な財務諸表を作成するために必要な資質・能力の育成

適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力の育成

「財務会計Ⅰ」の学習を基礎として、適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力の育成

適切な原価情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力の育成

経営管理に有用な適切な会計情報を提供するとともに、効果的に活用するために必要な資質・能力の育成

ビジネス・コミュニケーション

ビジネス基礎

学び方の例

- 実務に即した例題に取り組む
- 会計処理の方法などについて考察や討論を行う など

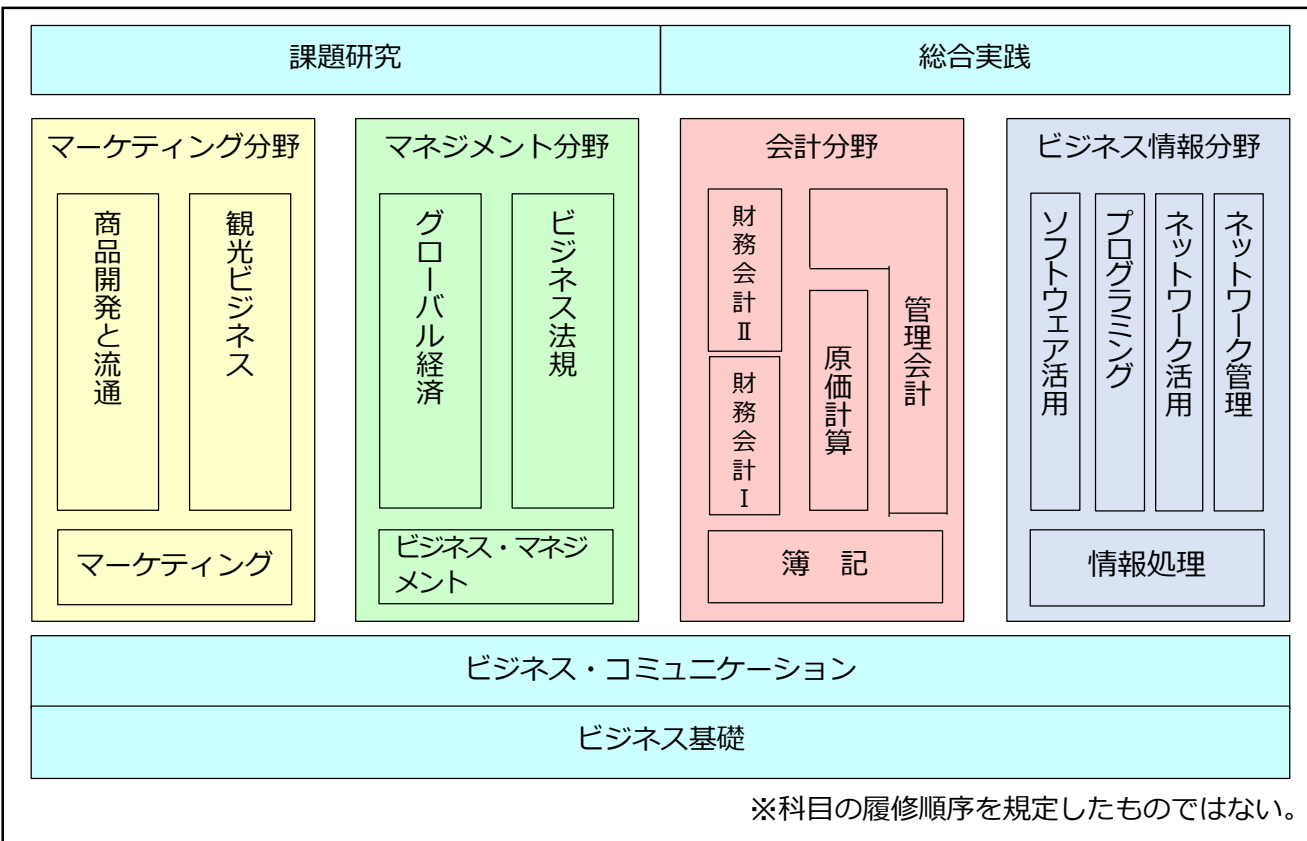
適切な情報を提供する力及び情報や情報技術をビジネスに効果的に活用する力を育成する。

課題研究			総合実践	
情報処理	ソフトウェア活用	プログラミング	ネットワーク活用	ネットワーク管理
企業において情報を適切に扱うために必要な資質・能力の育成	企業活動においてソフトウェアを活用するために必要な資質・能力の育成	企業活動に有用なプログラムと情報システムを開発するために必要な資質・能力の育成	インターネットを効果的に活用するとともに、インターネットを活用したビジネスの創造と活性化に取り組むために必要な資質・能力の育成	情報資産を共有し保護する環境を提供するために必要な資質・能力の育成
ビジネス・コミュニケーション				
ビジネス基礎				

学び方
の例

- 企業における情報の管理と活用に関する具体的な事例について多面的・多角的に分析し、考察や討論を行う
- 表現の方法や伝え方などの工夫について考察や討論を行う
- 企業において情報を扱う具体的な場面を想定した実習を行う など

専門教科「商業」の教育課程編成のイメージ



【指導計画の作成に当たっての配慮事項】

1 主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善

- (1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、商業の見方・考え方を働かせ、企業活動に関する事象を捉え、専門的な知識、技術などを基にビジネスに対する理解を深めるとともに、ビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、意見や助言を踏まえて改善を図るなどの実践的・体験的な学習活動の充実を図ること。

「主体的な学び」

ビジネスに関する課題を設定し、様々な教科・科目等で身に付けた知識、技術などを生徒自らが活用し、解決策を考案する学習となっているか、ビジネスに関する理論について、実験などにより確認し妥当性を検討したりしているかなどの視点から授業改善を図る。

「対話的な学び」

ビジネスにおける具体的な事例を取り上げ、科学的な根拠に基づいて多面的・多角的に考察や討論を行い、実際のビジネスについて客観的に理解するようにしているか、ビジネスの振興策などを考案して地域や産業界等に提案し、提案に対する意見や助言を踏まえてよりよいものとなるようにしているかなどの視点から授業改善を図る。

「深い学び」

「商業の見方・考え方」を働かせながら探究の過程を通して学ぶことにより、商業科で育成を目指す資質・能力を獲得するようになっていくか、地域を学びのフィールドとして模擬的なビジネスなどに取り組み、その結果を基に改善を図っているかなどの視点から授業改善を図る。

【指導計画の作成に当たっての配慮事項】

2 原則履修科目

- (2) 商業に関する各学科においては、「ビジネス基礎」及び「課題研究」を原則として全ての生徒に履修させること。

3 各科目の履修に関する配慮事項

- (3) 「財務会計Ⅱ」については、「財務会計Ⅰ」を履修した後に履修させることを原則とすること。

4 地域や産業界等との連携・交流

- (4) 地域や産業界等との連携・交流を通じた実践的な学習活動や就業体験活動を積極的に取り入れるとともに、社会人講師を積極的に活用するなどの工夫に努めること。

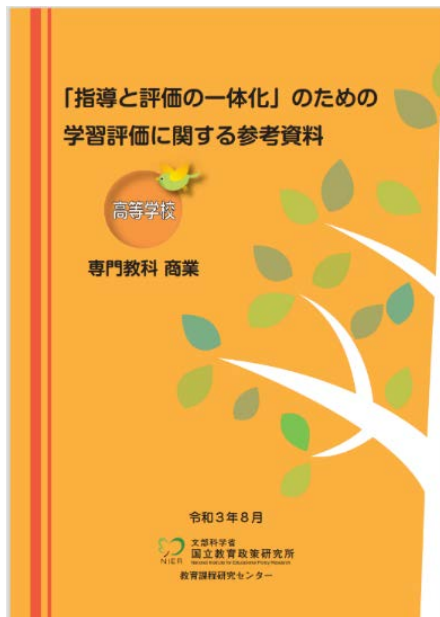
5 障害のある生徒などへの指導

- (5) 障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

2. 学習評価の改善の基本的な考え方

国立教育政策研究所が作成した資料について

『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料



第1編 総説

- ・平成30年改訂を踏まえた学習評価の改善
- ・学習評価の基本的な流れ

第2編「〔指導項目〕ごとの評価規準」作成する際の手順

第3編 単元ごとの学習評価について（事例）

- ・「〔指導項目〕ごとの評価規準」の考え方を踏まえた評価規準の作成
- ・学習評価に関する事例について

事例1 指導と評価の計画から評価の総括まで

「ビジネス基礎」 単元「ビジネスの動向・課題」

事例2 「知識・技術」の評価, 「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「マーケティング」 単元「情報の分析」

事例3 「知識・技術」の評価, 「思考・判断・表現」の評価

「簿記」 単元「現金と預金」

事例4 「思考・判断・表現」の評価,

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

「情報処理」 単元「コミュニケーションと情報デザイン」

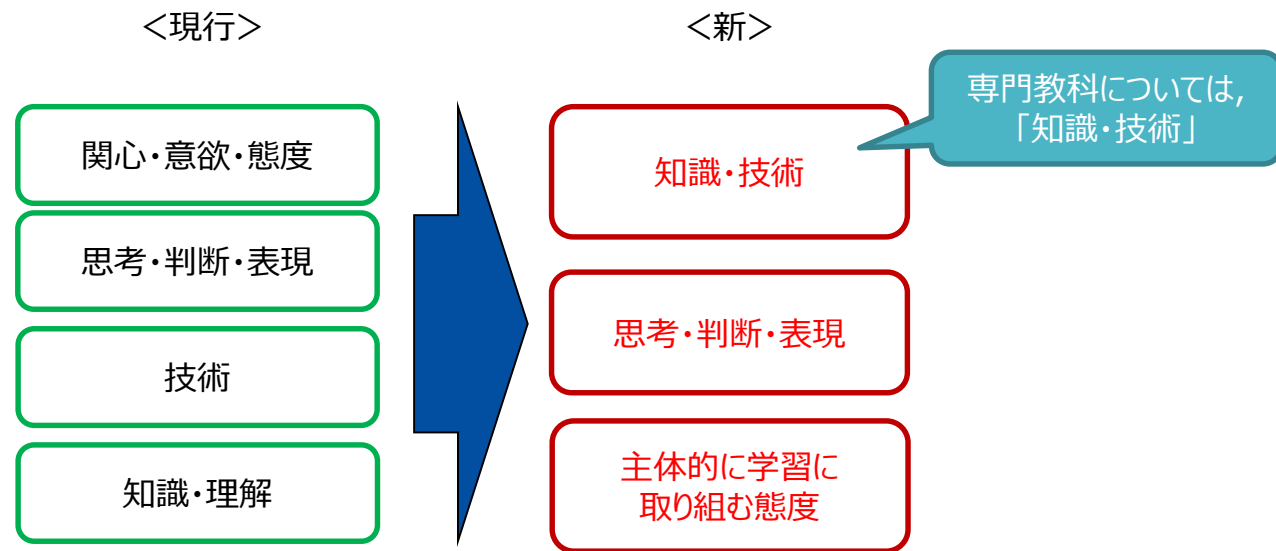
公表時期：令和3年8月 公表方法：国立教育政策研究所ホームページ

https://www.nier.go.jp/kaiatsu/pdf/hyouka/r030820_hig_shougyou.pdf

学校における働き方改革が喫緊の課題となっていることも踏まえ、次の基本的な考え方に立って、学習評価を真に意味のあるものとすることが重要。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ② 教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

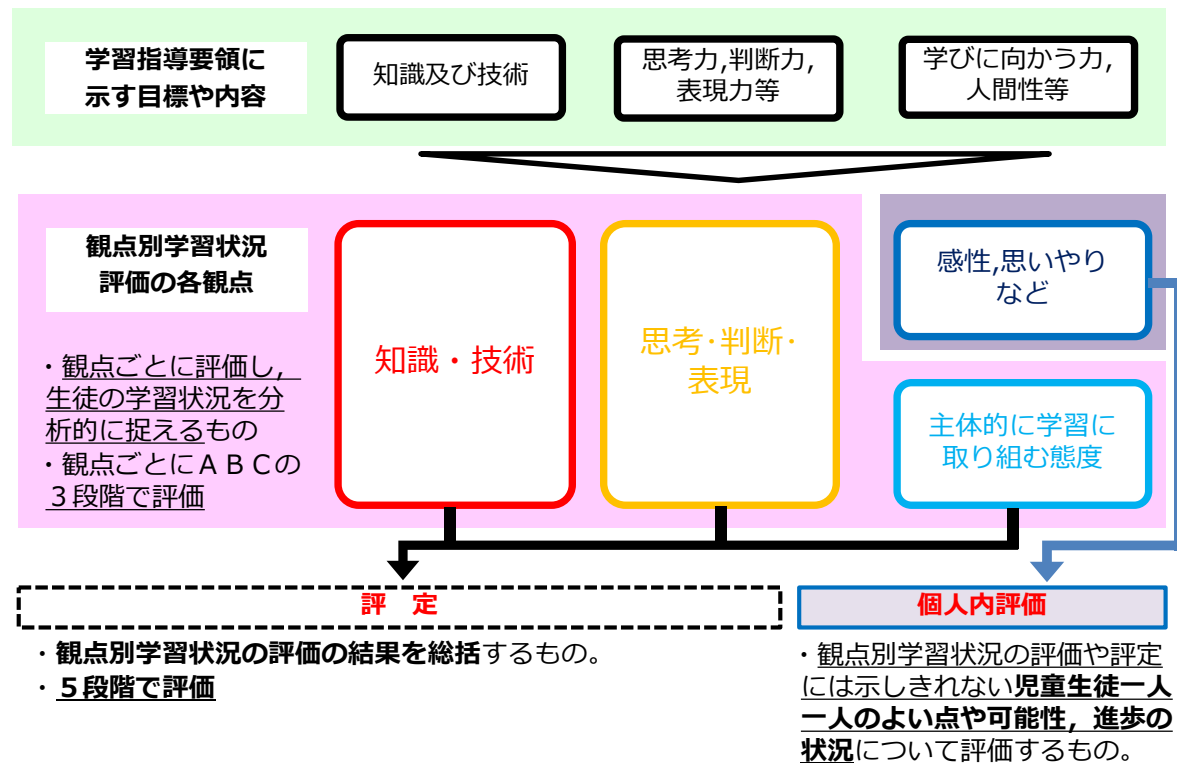
資質・能力の三つの柱に基づいた目標や内容の再整理を踏まえて、観点別学習状況の評価の観点については、小・中・高等学校の各教科等を通じて、「知識・技術」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理。 ※職業教科については、「知識・技術」としている。



各教科における評価の基本構造

資料p9

- 各教科における評価は、学習指導要領に示す各教科の目標や内容に照らして学習状況を評価するもの（目標準拠評価）
- したがって、目標準拠評価は、集団内での相対的な位置付けを評価するいわゆる相対評価とは異なる。



観点別学習状況の評価の充実

巻頭資料

【指導要録の参考様式における改善点】

高等学校においては、従前より観点別学習状況の評価が行われてきたところであるが、地域や学校によっては、その取組に差があった。今回、高等学校における観点別学習状況の評価を更に充実し、その質を高める観点から、指導要録の参考様式等を改善。

→ 指導要録の参考様式に、各教科・科目の観点別学習状況を記載する欄を設置

<旧>

様式2（指導に関する記録）											
生徒氏名		学 校 名				区分 \ 学年		1	2	3	4
						ホームルーム		担任番号			
教科・科目等の学習の記録											
各教科・科目等		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	修得単位数の計					
		評定	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数	修得単位数
		定	定	定	定	備 考					
教科等	科 目 等										
各教科に 対し 超過するもの を記入	国語総合										
	英語										
	地理										
	歴史										
	公民										
	数学										
	理科										
	体育										
	芸術										
	外国語										
	その他										
	その他										

第1学年	
評定	修得単位数
5	2

<新>

様式2（指導に関する記録）											
生徒氏名		学 校 名				区分 \ 学年		1	2	3	4
						ホームルーム					
		担任番号									
教科・科目等の学習の記録											
各教科・科目等		第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		修得単位数の計	
教科等	科目等	学級 評定	修得 単位数	学級 評定	修得 単位数	学級 評定	修得 単位数	学級 評定	修得 単位数	学級 評定	修得 単位数
国語	現代の国語	A A A									
英語	総合	C C B									
歴史	〃										
地理	〃										
公民	〃										
数学	〃										
理科	〃										
体育	〃										
芸術	〃										
外国語	〃										
その他	〃										

第1学年		
観点別学習状況	評定	修得単位数
AAA	5	2

従来の評定、修得単位数に加えて「観点別学習状況」欄を新設

3.学習評価の進め方

高等学校商業科の〔指導項目〕マーケティング

第5 マーケティング ← 科目

(1) 現代市場とマーケティング

- ア 市場環境の変化
- イ マーケティングの発展
- ウ マーケティングの流れ
- エ 消費者行動

(2) 市場調査

- ア 市場調査の目的と方法
- イ 情報の分析

(3) 製品政策

- ア 製品政策の概要
- イ 製品企画と生産計画
- ウ 販売計画と販売予測
- エ 製品政策の動向

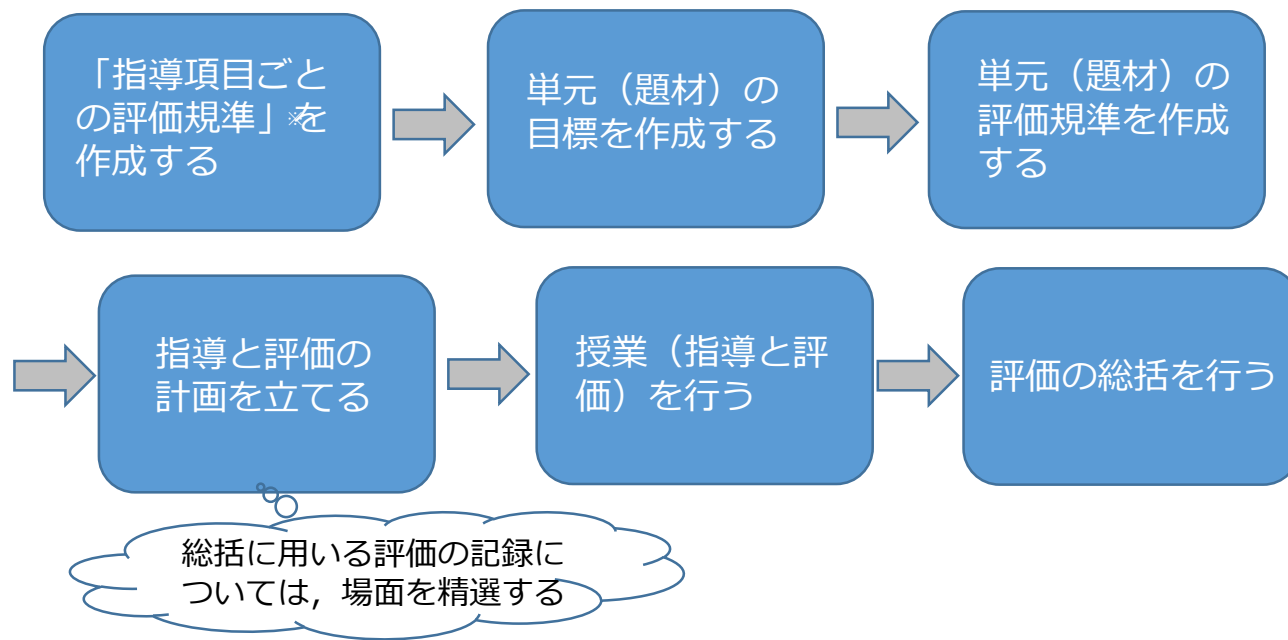
指導項目 (大項目)

指導項目 (小項目)

単 元 (1 又は複数可)

内容のまとめりで考える

職業教育を主とする専門学科においては、各科目における「内容のまとめり」を〔指導項目〕に置き換えている。



※ 職業教育を主とする専門学科においては、学習指導要領の規定から、「内容のまとまりごとの評価規準」を「**〔指導項目〕ごとの評価規準**」とする。

「考え方イメージ」

専門教科・科目の観点の趣旨は、目標の文末表現を「～している」としたもの。

【改善等通知 別紙 5 p. 6 各教科等の評価の観点及びその趣旨＜商業＞】

教科「商業」	教科目標		観点	評価の観点の趣旨
	(1)	商業の各分野について体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	知識・技術	商業の各分野について体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。
	(2)	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を養う。	思考・判断・表現	ビジネスに関する課題を発見し、職業人に求められる倫理観を踏まえ合理的かつ創造的に解決する力を <u>身に付けている</u> 。
	(3)	職業人として必要な豊かな人間性を育み、よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の構築を目指して自ら学び、ビジネスの創造と発展に主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。

科目「マーケティング」	科目目標		観点	評価の観点の趣旨（イメージ案）
	(1)	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に理解するとともに、関連する技術を身に付けるようにする。	知識・技術	マーケティングについて実務に即して体系的・系統的に <u>理解している</u> とともに、関連する技術を <u>身に付けている</u> 。
	(2)	マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を養う。	思考・判断・表現	マーケティングに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する力を <u>身に付けている</u> 。
	(3)	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	主体的に学習に取り組む態度	ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、マーケティングに主体的かつ協働的に取り組む態度を <u>身に付けている</u> 。

「考え方イメージ」

評価規準は、解説において大項目ごとに示される①から③までの事項を手掛かりにして作成。

内容の〔指導項目〕

- (1) 現代市場とマーケティング
- (2) 市場調査
- (3) 製品政策
- (4) 価格政策
- ⋮

※専門教科では、学習指導要領の2内容の〔指導項目〕の(1)、(2)などの大項目ごとに、解説において、資質・能力の三つの柱により身に付けるべき事項①～③を整理している。

身に付けるべき事項 (解説)

- ① 市場調査について企業における事例と関連付けて理解するとともに、関連する技術を身に付けること。
- ② 市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案して実施し、評価・改善するとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析すること。
- ③ 市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組むこと。

観点

評価規準の作成の手順 (イメージ案)

知識・技術

市場調査について企業における事例と関連付けて理解しているとともに、関連する技術を身に付けている。

思考・判断・表現

市場調査に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて、調査計画を立案し、評価・改善しているとともに、市場調査で得られた情報を科学的に分析している。

主体的に学習に取り組む態度

市場調査について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

【ビジネス基礎（1）商業の学習とビジネス ウ ビジネスの動向・課題】

時間	ねらい・学習活動	重点	記録	備考（評価規準・評価方法）
第一次（2時間）	1 経済を支えるビジネス ← 学習のねらい 生産と流通の働きによって、私たちの生活が支えられていることを理解する。 ← 学習活動の内容 - グループでビジネスの具体的な事例を発表し合い、自分の発言と他者の発言を区別しながら、生産と流通に関わるビジネスの具体例を整理する。 - 生産、流通、金融や情報など、経済を支えるビジネスについて基礎的な知識や、日本の産業構造の変化について理解する。	思 態 知	○	- 生産と流通に関わるビジネスの具体例を挙げる活動に、自分の考えに加え、他者の意見を調整しながら意欲的に取り組もうとしている。 観察・ワークシート 評価資料 2 ※ 補足資料参照 - 生産、流通、金融や情報などが経済を支えている過程や産業構造についての基礎的な知識を理解している。 ペーパーテスト(小テスト)

【観 察】

【ワークシート】

【相互評価シート】

生徒同士による相互評価をそのまま成績として用いることは望ましくない。
あくまでも授業者が把握しきれなかったような、生徒の取組の様子をより
正確に把握するための補助的な材料として採用することが望ましい。

【ペーパーテスト】

小テスト・定期考査等

【生徒へのアドバイス欄】

観点別学習状況の評価になじまず、生徒の良い点や可能性、進歩の状況など、個人内評価の対象となるものを積極的に記入する。

- 個別の知識及び技術の習得状況について評価する。
- それらを既有的知識及び技術と関連付けたり活用したりする中で、概念等として理解したり、技術を習得したりしているかについて評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である

- ・「知識・理解」（各教科等において習得すべき知識や重要な概念等を理解しているかを評価）
- ・「技術」（各教科等において習得すべき技術を児童生徒が身に付けているかを評価）
においても重視。

＜評価の工夫（例）＞

- ペーパーテストにおいて、事実的な知識の習得を問う問題と、知識の概念的な理解を問う問題とのバランスに配慮する。
- それぞれの教科等の特質に応じ、観察・実験をしたり、式やグラフで表現したりするなど学習した知識や技術を用いる場面を設け評価

専門教科「商業」の留意事項

「ビジネスに関する個別の事実的な知識，一定の手順や段階を追って身に付く個別の技術のみならず，それらが相互に関連付けられるとともに，具体的なビジネスと結び付くなどした，ビジネスの様々な場面で役に立つ知識と技術，将来の職業を見通して更に専門的な学習を続けることにつながる知識と技術などを身に付けるようにする」ことに留意することが必要。

マーケティング「知識・技術」の評価

2 単元の評価規準

知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
市場調査で得られた情報の分析について、企業における事例と関連付けて理解しているとともに、分析結果を販売戦略に活用する技術を身に付けている。	情報の分析に関する課題を発見し、それを踏まえ、科学的な根拠に基づいて販売戦略を立案し、評価・改善しているとともに、その課題を解決している。	情報の分析について自ら学び、マーケティングに必要な情報の収集と分析に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

Q あなたは、バレンタイン販売戦略担当者に選ばれました。M社の市場調査の結果から読み取った情報を活用して販売戦略を考えます。どのような提案をするかできるだけ具体的に記入してください。

評価 状況	B	A	C
	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
知識・技術	資料から消費者の購買に対する意識と行動やニーズについて情報を読み取って分析し、商品の内容や価格等について具体的に提案している。	資料から消費者の購買に対する意識と行動やニーズについて情報を読み取って分析し、商品の内容や価格等について具体的に提案できるとともに、その提案に独創性や根拠を示して具体的に提案している。	資料から読み取った情報量が少なく、情報の分析や提案内容が不十分である。 【手立て】 資料における特徴的な数値の変化と消費者の行動の変化に着目させる。

【ワークシートの記述】 マーケティング「知識・技術」の評価

○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例

評価の考え方

自分用にチョコを用意する人と市販のお菓子を買ってきて用意する人が増えているから、内容量は少なくして質を高くし、単価を引き上げた商品を販売する。

資料1の「自分」用が前年より増加していることや資料2の「買ったお菓子」の購入が増えているという消費者の意識や行動の変化を読み取っており、商品の内容や価格の提案を具体的に示していることからB評価と判断した。

○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例

自分用にチョコレートを買ってきて用意する人が増えているから、「自分へのご褒美チョコ」をコンセプトに、内容量は少なくして「高力カオ」を売りにして、単価を引き上げた商品を販売する。

B評価と判断した生徒と同様の状況であることに加え、販売時のPRのコンセプトについて下線部のように独自の提案をしており、質の向上と値上げの根拠を具体的に示していることからA評価と判断した。

○「努力を要する」状況（C評価）の記述例

自分用のチョコレートを多く販売する。

資料から読み取った情報が少なく、提案内容が具体的でないことからC評価と判断した。

【手立て】資料1及び資料2からA年とB年で数値に大きな差が見られる事項や、資料3から市場の動向や顧客の意識の変化に注目するように助言する。

各教科等の知識及び技術を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうかを評価する。

※上記の考え方は、現行の評価の観点である「思考・判断・表現」の観点においても重視。

<評価の工夫（例）>

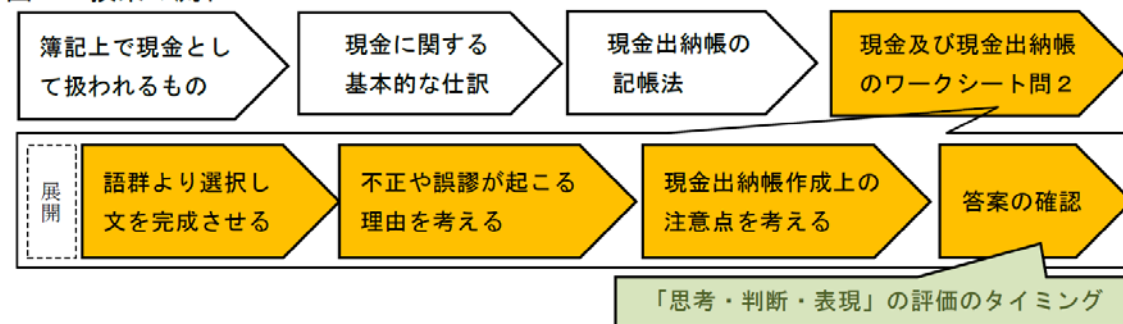
- ペーパーテストにおいて、出題の仕方を工夫して評価
- 論述やレポートを課して評価
- 発表やグループでの話し合いなどの場面で評価
- 作品の制作などにおいて多様な表現活動を設け、ポートフォリオを活用して評価

専門教科「商業」の留意事項

「商業の各分野などの学習を通して身に付けた様々な知識，技術などを活用し，ビジネスの実務における課題など地域産業をはじめとする経済社会が健全で持続的に発展する上での具体的な課題を発見」し，「企業活動が社会に及ぼす影響などを踏まえ，科学的な根拠に基づいて工夫してよりよく課題を解決する」ために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けるようにすることに留意することが必要。

簿記「思考・判断・表現」の評価

図2 授業の流れ



評価	B	A	C
状況	おおむね満足できる	十分満足できる	努力を要する
思考・判断・表現	現金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題におおむね対応している。	現金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだし、その課題に対して実務を踏まえた根拠を示して対応している。	現金の記帳法の妥当性と実務における課題を見いだすことができない。 【手立て】現金の記帳法の実務における課題を確認させる。

【ワークシートの記述】 簿記「思考・判断・表現」の評価

○「おおむね満足できる」状況（B評価）の記述例

(1)

ア	不正
イ	実際有高
ウ	補助簿

(2)

日常の現金取引の業務が多いことや、少人数の経理担当者で処理をすることがあるため間違いが多いと考える。
また、少人数で行うことで、金額をごまかしやすくチェック機能が働いていない場合、不正が起こりやすいと考える。

(3)

不正や誤謬を防ぐため、毎日の現金出納帳の日付・摘要・金額の確認をしっかりと行うことが大切である。また、現金がいくらあるか確認することも大切である。

語群選択が適切で実務における課題を把握することができている。

不正や誤謬が起こる理由を適切に記述している。

会社で現金出納業務を担当する際の注意事項を適切に記述している。

○「十分満足できる」状況（A評価）の記述例

(1)(2)の記述は、B評価の記述例と同様であるので省略する。

現金出納業務の確認を複数人で行うという解決策を具体的に記述している。

(3)

不正や誤謬を防ぐため、毎日の現金出納帳の日付・摘要・金額の確認を複数人で行うことが大切である。また、現金の実際有高とを照合することも大切である。さらに、現金出納帳の作成者と現金の支出担当者を分けるなどの対策をすると良いと考える。

現金出納業務の役割分担を行うという解決策を具体的に記述している。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

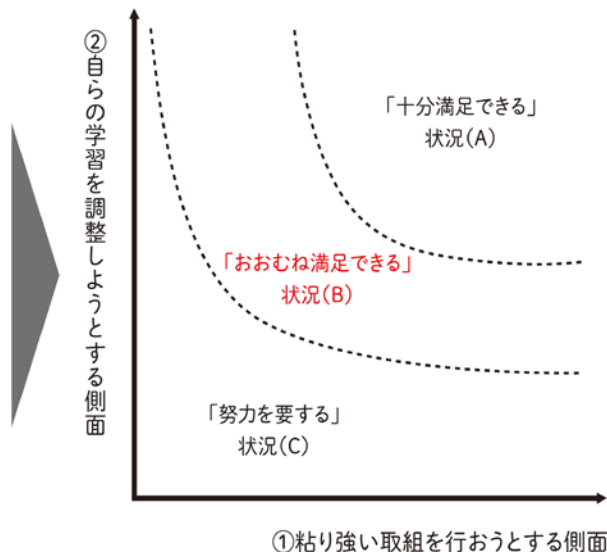
資料p10～12

「主体的に学習に取り組む態度」については、①知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組の中で、②自らの学習を調整しようとしているかどうかを含めて評価する。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価のイメージ

○「主体的に学習に取り組む態度」の評価については、①知識及び技術を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面と、②①の粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面、という二つの側面から評価することが求められる。

○これら①②の姿は実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられる。例えば、自らの学習を全く調整しようとせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではない。



専門教科「商業」の留意事項

「自らの学習を調整しようとする側面」

自らの学習状況を振り返って把握し、学習の進め方について試行錯誤する（微調整を繰り返す）などの意思的な側面

指導において次のような工夫も大切

- 生徒が自らの理解状況を振り返ることができるような発問を工夫したり指示したりする
- 内容のまとまりの中で、話し合ったり他の生徒との協働を通じて自らの考えを相対化するような場面を設ける

◎ここでの評価は、生徒の学習の調整が「適切に行われているか」を必ずしも判断するものではない。
学習の調整が適切に行われていない場合には、教師の指導が求められる。

「ビジネスを通じ、地域産業をはじめ経済社会の健全で持続的な発展を目指して主体的に学ぶ態度」や、「企業を社会的存在として捉えて法規などに基づいてビジネスの創造と発展に責任をもって取り組む態度」等を養うようにすることに留意することが必要。

＜評価の工夫（例）＞

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 生徒による自己評価や相互評価等の状況を教師が評価を行う際に考慮する材料の一つとして用いる

※「知識・技術」や「思考・判断・表現」の観点の状況を踏まえた上で評価を行う。
（例えば、ノートにおける特定の記述などを取り出して、他の観点から切り離して「主体的に学習に取り組む態度」として評価することは適切ではない。）

ビジネス基礎「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(〔態α〕自らの学習を調整しようとする側面)

[参考資料](1)観察、(2)ワークシートの評価の進め方(評価資料2の評価例)

1. グループワーク・ワークシートへの記述

質問1 回転寿司で、あなたが1番好きな寿司ネタを教えてください。

質問2 あなたがその寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっていると思いますか？

主に生産に関わるビジネス ▶	主に流通に関わるビジネス ▶	消費者
(例)米を生産する農家さん お皿を製造する工場	(例)調理する従業員 資金を提供する銀行	

グループワーク

質問3 グループで発表し合い、それぞれの発表内容について記述してください。

生徒氏名	生産に関わると思うもの	流通に関わると思うもの
------	-------------	-------------

質問4 発表内容について話し合い、生産、流通、どちらかよく分からないものに整理してください。

生産に関わると思うもの	流通に関わると思うもの	どちらかよく分からないもの
-------------	-------------	---------------

質問5 どちらかよく分からないと思うものは、なぜそう思うのか理由を書いてください。

グループワークを終えて

質問6 寿司を食べるまでに、どのようなビジネスが関わっているかあらためて整理してください。

主に生産に関わるビジネス ▶	主に流通に関わるビジネス ▶	消費者
----------------	----------------	-----

質問7 もし、流通に関わるビジネスがなかったら、あなたの普段の生活はどうなりますか。

質問8 この学習で学んだことを整理して、これから流通で学びたいことを書いてください。

〔態α〕

〔態α〕[読み取りのポイント(例)]

- 1 質問2と質問6・7の記録内容を比較して、流通に対する理解の変容やより根拠のある説明が見られる。
- 2 質問3・4・5における記録内容から、学習を振り返り、整理しようとする姿勢が見られる。
- 3 質問8の記録内容から、学習全体を整理して、これからの学習に向かおうとする姿勢が見られる。

[評価方法(例)] LV3:3項目 LV2:2項目 LV1:1項目以下

評価

ビジネス基礎「主体的に学習に取り組む態度」の評価

(〔態β〕 粘り強い取組を行おうとする側面)

2. 観察

観察シート（座席表形式）

生徒		生徒		生徒		生徒		生徒		生徒
生徒		生徒		生徒		生徒		生徒		生徒

○担当教員が次の点に注意しながら観察し、+（特に良い）・-（改善が必要）を記録する。

- ① グループワークへの参加の様子が積極的かつ、集中して取り組もうとしている。
- ② プレーンストーミングを理解して、周りの意見を批判せず、さらに発展させようとしている。
- ③ グループワークにおいて、担当教員の指示をしっかりと聞き取り、協力的に取り組もうとしている。

〔態β〕〔読み取りのポイント・評価方法（例）〕

L V 3 積極的な行動やグループを活かそうとする行動が目立っており十分満足できる。

L V 2 おおむね適正な行動で、グループワークの目的が達成できている。

L V 1 グループワークには参加しているが改善を要する行動が目立つため、努力を要する。

〔態β〕

評価

ビジネス基礎「主体的に学習に取り組む態度」の評価

[態α] 自らの学習を調整しようとする側面	LV3	B	A	A
	LV2	B	B	A
	LV1	C	B	B
		LV1	LV2	LV3
	[態β] 粘り強い取組を行おうとする側面			

〔態α〕〔態β〕で示した生徒の姿は、実際の教科等の学びの中では別々ではなく相互に関わり合いながら立ち現れるものと考えられることから、実際の評価の場面においては、双方の側面を一体的に見取ることが望まれる。例えば、自らの学習を全く調整しようとしせず粘り強く取り組み続ける姿や、粘り強さが全くない中で自らの学習を調整する姿は一般的ではないことに留意する必要がある。

- ア 評価結果のA, B, Cの数を基に学期末の総括とする場合
 （「A, A, B, B」の総括の結果をBとしている例）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 1	A	A	B
単元 2	B	B	A
単元 3	B	B	A
単元 4	A	C	A
1 学期	B	B	A

- イ 評価結果のA, B, Cを数値に置き換えて学期末の総括とする場合
 （総括の結果をBとする範囲を $[2.5 \geq \text{平均値} \geq 1.5]$ としている例）

	知識・技術	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元 1	A (3)	A (3)	B (2)
単元 2	B (2)	B (2)	A (3)
単元 3	B (2)	B (2)	A (3)
単元 4	A (3)	C (1)	A (3)
1 学期	B (2.5)	B (2.0)	A (2.8)

＜本事例の総括の考え方＞

- ① 「十分満足できる」状況と判断されるものをA, 「おおむね満足できる」状況と判断されるものをB, 「努力を要する」状況と判断されるものをCとする。
- ② Aを5点, Bを3点, Cを1点として各評価資料における評価集計表に記録する。
- ③ 各学期末に評価資料の比重を定めた上で計算し, 各観点の平均点を求める。
- ④ 各観点の平均値の小数第1位を四捨五入して, 5点であればA, 3又は4点であればB, 1又は2点であればCとする。
- ⑤ 各学期末に各観点の合計点を5段階評価換算表（下表参照）に基づいて評価案を作成する。
- ⑥ 各観点のA, B, C評価を表示する。
- ⑦ 合計点数の小数第1位を四捨五入した点数の3点と4点, 6点と7点, 10点と11点, 13点と14点の生徒については, 5段階評価のボーダーラインとして捉え, 科目における成績会議等で学習状況を精査して評価を確定させる。

＜観点別評価の点数イメージ（抜粋）＞

＜合計点数からの5段階評価換算表＞

最低		最高	評価
14	～	15	5
11	～	13	4
7	～	10	3
4	～	6	2
0	～	3	1

観点別評価例	合計点数	5段階評価
A A A	15	5
A A B	13	4
A B B	11	4
A B C	9	3
B B B	9	3
B B C	7	3
B C C	5	2
C C C	3	1

次のア、イは、＜本事例の総括の考え方＞①～⑦に基づいて各学期の評価を行い、最終的な学年末の評定を確定するまでの一連の流れを表している。

ア 各学期の観点別評価例

評価資料番号
P.45, 46 参照

＜1学期の観点別学習状況の評価（評価集計表）＞

「知識・技術」の観点のうち、「知識」を問う出題
「技術」を問う出題は、2学期以降に実施

「表現」を問う出題は、
1学期末以降に実施

評価資料		1	2	3	4	5				6
観点		態度	態度	態度	思考	知識		思考・判断		態度
番号	氏名	課題1 オリエン テーション ワークシート	課題2 生産と流通 観察	課題3 情報化 ワークシート	課題4 情報 グローバル ワークシート	1学期 中間考査 知識 70点満点	1学期中間 知識 評価	1学期 中間考査 思考・判断 30点満点	1学期中間 思考・判断 評価	課題6 ビジネス マナー 発表活動
1	あ	5	5	5	5	70	5	25	5	5
2	い	5	1	1	3	30	1	10	1	5
3	う	3	5	5	5	68	5	30	5	5
4	え	5	3	3	1	45	3	10	1	1
32	た	5	5	5	5	60	5	20	3	5
33	ち	3	1	1	1	35	3	5	1	1
34	つ	5	3	5	3	50	3	22	3	5
35	て	5	5	5	5	65	5	25	5	5

年間の換算点と評価

イ 学年末の観点別評価例

＜学年末の換算点と評価＞

番号	氏名	年間換算点					年間評価				
		知識技術 換算	思考判断 換算	主体的 学習態度 換算	換算 合計	換算 小数第1位 四捨五入	知識・ 技術	思考・判 断・表現	主体的 学習態度	評価案	評 定
1	あ	5.0	4.9	4.2 ▶	14.11	14	A	A	B	5	5
2	い	1.0	1.8	3.0	5.80	6	C	C	B	2	2
3	う	5.0	4.9	4.3	14.18	14	A	A	B	5	5
4	え	4.3	2.9	2.9	10.09	10	B	B	B	3	3
32	た	5.0	3.9	4.5 ▶	13.43	13	A	B	A	4	4
33	ち	1.3	1.0	1.1 ▶	3.44	3	C	C	C	1	1
34	つ	4.5	3.2	3.9	11.66	12	A	B	B	4	4
35	て	5.0	4.3	4.7 ▶	13.98	14	A	B	A	4	5

新学習指導要領の改訂のポイントと学習評価 (高等学校 専門教科「商業」)

文部科学省

初等中等教育局

参事官（高等学校担当）付 産業教育振興室

教科調査官 田中 圭